

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

平成28年度CAD技術者研修開催される

— 1級～3級・施設系中規模木造建築物対応 —

平成28年度のCAD技術者研修が1～3月に開催されました。1級～3級コースは、1級コース：東京（木材会館）平成29年2月27、28日、参加者数21名（うち会員工場からの参加者数9名以下同じ）、2・3級コース：東京（木材会館）1月24、25日、参加者数2級68名（27名）、3級13名（4名）で実施しました。

1級コースでは、受講者には研修当日に持参する事前課題を課すなどの研修形態とし、プレカット工場のCAD部門の責任者に相当する人材を対象としていることから、より高度な講義内容の理解度を確保するため、記述式による4時間20分の考査を実施し、自らの技術的な知識の確認の他、部下への指導方法を問う問題も出題しました。2・3級コースでは、受講者が研修内容の理解度を自ら認識するため、研修終了後1時間の考査を行いました。各コースとも考査結果が基準点以上の受講者については、申請によりプレカットCAD技術者認定登録が可能になります。

施設系中規模木造建築物に対応したプレカットCAD技術者研修は、3月7日（火）、8日（水）に東京都（木材会館）において参加者数20名（うち会員工場に所属する者は10名）で実施しました。

住宅着工数の減少が見込まれる中で、非住宅分野の木造化が注目されていますが、非住宅においては、四号建築物には適用されない法的規制等があることから、講義のレベルは、既に、小規模木造建築物（四号建築物）を独自でCAD入力ができ、これに関連する木質材料、木質構造、関連法規等について熟知していることを前提に講義を行いました。

このため、受講資格として、当協会のプレカットCAD技術者基準に基づき、プレカットCAD技術者2級以上に登録されている者とし、1事業所当たりの参加者は2名以内としました。本年度の研修日程は講義内容を充実するため2日間とし、カリキュラムと講師は、①施設系中規模木造建築物とプレカット（講師：オブコード研究所 野辺公一氏）、②施設系中規模木造建築物の構造計画（講師：山辺構造設計事務所 山辺豊彦氏）、③施設系中規模木造建築物と関連法規、施設系中規模木造建築物における木材の知識（講師：ものつくり大学教授 小野泰氏）、施設系中規模木造建築物の構法・構造の考え方（講師：村上木構造デザイン室 村上淳史氏）としました。

これからも、地域の一般流通材を使用した各種木造建築物生産のために、プレカット加工業の関与は深くなります。CAD技術者の充実、会員の皆様の工場が地域の中核としてご活躍していただくための重要なポイントですので、これらの研修の成果がご活用されることを期待しております。



1級の研修会場

平成29年度事業計画及び収支予算を承認

— 平成28年度第2回理事会開催 —

当協会は、3月22日（水）に平成28年度第2回理事会を永田町ビル4階大会議室において開催しました。

理事会の冒頭、原田会長から、「我が国経済は、アベノミクスの取組の下、緩やかな回復基調が続いている。先行きの我が国経済も、海外情勢の不透明さはあるものの、輸出の回復や公共投資の増加、個人消費が底堅く推移することなどにより、緩やかな回復が続くと見られている。プレカット加工業の業況に関連が深い新設住宅着工戸数動向をみると、平成28年は、96万7千戸と前年に比べて+6.4%になっており、相続税の見直し、マイナス金利政策の影響等から貸家を主体に堅調に推移した。このようなことから、プレカット加工業の業況は、地域的な差はあるものの工場の稼働率は高水準になったが、競争の激化等もあり加工単価は横ばいで推移し、さらに、加工資材の入手環境も厳しいものとなるなど業況の回復には結びついていない状況である。今後、木造住宅市場の縮小が懸念される中で、木造建築物の新たな需要分野として、一般流通材を使用した店舗・事務所等の非住宅木造建築物が注目されている。当協会では、このような需要分野の変化に対応するため、プレカット加工業としての関わりを技術面、業務面から支援し、新たな分野への対応を進めていきたい。」旨の挨拶がありました。

議事においては原田会長が議長を務め、まず、「平成29年度事業計画（案）及び平成29年度収支予算（案）」が事務局から提案説明され承認されました。引き続き、「平成28年度事業の遂行状況」について事務局から説明があり、この中では、従来から実施している普及事業、調査事業の他、技術支援事業として「プレカットCAD技術者基準」に基づくプレカットCAD技術者研修（1級～3級）の実施とプレカットCAD技術者認定登録の状況、また、施設系中規模木造建築物対応CAD技術者研修の実施状況等が説明されました。

なお、今回の理事会で承認された「平成29年度事業計画及び平成29年度収支予算」は、6月13日（火）に開催される第7回定時社員総会（会場：ホテルメルパルクTOKYO 東京都港区芝公園2-5-20）に報告されます。

第8回「新たな木材利用」事例発表会開催される

一般社団法人全国木材組合連合会と木材利用推進中央協議会は、共催で2月23日（木）に東京都江東区新木場の木材会館7階ホールにおいて、第8回「新たな木材利用」事例発表会を開催しました。この発表会には、木材関係者、設計関係者等、120名の参加があり、木造建築の意義や木材の新分野への利用について関心の高さをうかがわせるものになりました。

事例発表の第1部においては、「木材を活用した学校施設のリノベーションによる地域活性化」について、東洋大学名誉教授 教育環境研究所理事長の長澤悟氏が、各地の木を活用した学校改修の事例を紹介しながら、学校施設で木を活用する課題、木の学校づくりの進め方、新しい事例等について示しながら、木材を活用した学校施設の実現をどう実現していくかについて説明されました。最後に、東日本大震災からの木を活かした学校復興についての事例等を紹介され、学校を核としたまちづくりについての説明がありました。

また、第2部においては、「木材を使った街づくり」事例とその評価について発表が行われました。まず、山形県鶴岡市建設部建築課の後藤章子さんが市有林を活用した朝日中学校改築事業での取組みを事例として、鶴岡市における公共施設への木材利用について紹介しました。次に、(株)HUG代表取締役の山田敏博氏が都市の木造化・木質化の提案と実践について紹介しました。この他、新柏クリニック前理事長の木村靖夫が、大型木造医院の建設についての事例紹介、最後にSMB建材(株)木構造建築部長の小川嘉男氏が一般流通材活かした大型木造建築の可能性について紹介しました。

これらの事例発表を通して、木のある生活が心と体の安らぎを与え、木の学びや木のまちづくりがさらに広がっていくことが期待されています。

平成28年 協会会員工場基礎調査結果について（第1回）

— プレカット加工用資材の材種別使用状況 —

平成28年に協会会員工場で使用した資材について、国産材、輸入材別にグリーン材、KD材、集成材、合板、その他の使用割合について集計、分析を行いました。（調査工場数:42工場）

国産材（41.9%）

表中の（ ）は昨年の数値

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等	合板	その他
0～10	29	5	18	20	42
11～20	6	6	6	6	0
21～30	3	4	6	4	0
31～40	1	10	5	4	0
41～50	2	4	1	5	0
51～60	0	5	1	2	0
61～70	0	2	3	0	0
71～80	0	2	2	1	0
81～90	1	3	0	0	0
91～100	0	1	0	0	0
平均使用率(%)	12.8	42.5	23.1	21.1	0.5
中央値(%)	10	40	30	20	
(平均使用率(%))	(11.9)	(57.7)	(30.4)		
(中央値(%))	(10)	(60)	(20)		

輸入材（58.1%）

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等	合板	その他
0～10	38	3	2	34	40
11～20	1	7	4	2	0
21～30	2	4	5	5	1
31～40	1	8	15	0	0
41～50	0	7	3	0	0
51～60	0	4	4	0	1
61～70	0	6	1	1	0
71～80	0	2	5	0	0
81～90	0	1	1	0	0
91～100	0	0	2	0	0
平均使用率(%)	3.9	41.4	45.5	6.8	2.4
中央値(%)	5	40	40	15	
(平均使用率(%))	(6.1)	(46.2)	(47.7)		
(中央値(%))	(3)	(50)	(40)		

注1.27年までの調査では、国産材、輸入材別にグリーン材、KD材、集成材等の3区分で調査。

◇簡単なコメント

1. 国産材においては、これまで平均使用率の長期的なトレンドとして、グリーン材の使用率の低下や集成材等の増加が続いており、今回新たに集成材等を細分化して調査した結果、KD材43%、集成材23%、合板21%、グリーン材13%という結果になった。平均使用率を前回と比較すると、グリーン材の割合はほぼ同等であるが、KD材が約15ポイント低下して、集成材等の割合が上昇している。
2. また、輸入材においても、集成材等を細分化した結果、集成材が46%、KD材が41%、合板7%、グリーン材4%、その他2%という結果になった。前回の調査結果よりKD材の使用率が5ポイント、グリーン材が2ポイント低下して、集成材等の使用率が上昇している。

プレカット業況調査(平成29年2月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 52%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	15	32	53	- 38	+ 34
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	38	53	9	+ 29	- 51
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,040円(対前回調査+20円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	91	6	- 3	- 4
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	6	91	3	+ 3	- 4
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	9	68	23	- 14	- 51
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	15	65	20	- 5	- 13
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	3	56	41	- 38	+ 21
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	35	56	9	+ 26	- 44

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 平成28年11月

◇簡単なコメント

2月の各設問のDIをみると、受注額、収益は悪化しているが、3ヵ月後は大幅に改善すると予測されている。このような中で、加工単価についても弱含みで推移するとみられていたが、現状維持となった。また、資材の入手環境は、受注減の影響等から軟化はしているが、春の訪れとともに業況の好転に伴って、タイト感は続くであろう。春の訪れとともに業況が好転することを期待したい。

1. 受注額のDIは-38で前回調査時(平成28年11月期)に比べて、悪化しており冬場の不需用期の厳しさを反映している。このような中で、3ヶ月後の予測のDIは+29と好転している。今後、冬場の不需用期を脱し、春の訪れが業況の活性化をもたらすと期待される。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-3とマイナスに振れており、平均総加工単価は6,040円と3ヵ月前と比べて20円上昇しているが、ほぼ横ばいの範疇といえるであろう。3ヵ月後の製品加工単価のDIは+3で、受注量が増加すると見込まれる中で加工単価の上昇は期待薄であるということは厳しい現状といえる。
3. 資材入手状況のDIは-14で合板等中心にタイト感が続いている。3ヵ月後の予測のDIは-5(前回は-13)であり、この状況は続くものとみられる。
4. このようなことから、3ヵ月前と比べて今月の収益のDIは-38で、前回調査時の3ヶ月後の収益予測である-44に沿うものとなった。一方、3ヶ月後の収益予測は+26と大幅に改善するものとみられ、これを足がかりに全国的に業況が回復することが待たれる。